新潟教育研究所

令和元年６月４日発行　第 41 号

公益財団法人 新潟教育会
新 潟 教 育 研 究 所

〒951-8104　新潟市中央区西大畑町590-3　新潟教育会館　TEL・FAX 025－222－2971
URL http://kyouikukai.jp　E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

教育カウンセリング
～エビデンスベースを超えて～

新潟大学教職大学院 教授
吉 澤 克 彦

これから先，求められる教師の資質・能力は何か。そして，それをどう磨き続けたらよいのか。

平成最後の４月，「2025年までに専門人材を配置して毎年100万人規模の生徒がＡＩ教育を」という首相の発言があった。これは，改訂された学習指導要領のもとで行われる学校教育のほんの４，５年後の姿の一つとなる。（高等学校の学習指導要領の全面実施は22年なので３年後）

めまぐるしく更新される教育課題。

文部科学大臣も「Society5.0の到来といった急激な社会的変化が進む中，子どもたちが予測不可能な未来社会を自立的に生き，社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する」と応じている。

様々な専門性や強みを持つ者が協働して運営する「チーム学校」は，その一つの姿のようにも見える。

だが，そのベースには，教員一人一人が，その資質・能力を磨き続けることが大前提である。教科等の専門分野を磨き上げることはもちろんのこと，これからは，それ以上に必要となるのは，周辺に広がる分野や異分野にも興味関心を持ち続け，学び続けることである。

膨大な知識の蓄積，そしてそのよりよい活用や関連づけはＡＩが担う時代。最大公約数の幸福の実現をエビデンスベースでＡＩが判断する時代。教科の専門性や知識体系をもつだけでは，ＡＩにあらがいようがなくなる。

これからは，個に応じたケアや集団をまとめることができることが教師の専門性の一つになる。

そして，私の立場から述べれば，これからの教師の姿は，教育カウンセリング（國分康孝提唱）になじみのある教師と言うことになる。

教育カウンセリングになじみのある教師とは，すなわち，次の３つである。

1　グループや組織の風土を形成し，まとめ動かすことのできる教師。
2　感動を共有し，自己開示でき，一人一人の成長を促し，ケアできる教師。
3　行動規範を示し，差別や偏見，ハラスメントに毅然と対峙できる教師。

これらが，令和の教師に必要とされる資質・能力であり，それを身につけるには，教育カウンセリングを学ぶことが，一つの機会になる。

私は，教育カウンセリングの中で，生徒を組織し，動かし，一人一人をケアし，個別の問題にも対応することを学んできた。そして教育は，エビデンスベースだけではないことも体感した。「夕日が美しい」と共感することにエビデンスを求めてもナンセンスである。ＡＩが膨大なデータを集めて解析しても美しいと思う心に「共感」することない。教育は，一人一人を認め，気づきや感じたままを尊重する営みでもある。これは，地域や我が国を思う子，創造の翼を広げ，世界へそして未来にも羽ばたく子を育てることにもつながる。それこそが求められる教師の使命である。

書くことは考えること

新潟教育研究所 教育アドバイザー
武藤眞理子

はじめに

「国語」とは，「日本語」のことである。日本語なんてもう話せるし，本だってスラスラ読めると考えている子どもたちに，日本語という言葉の力を高める面白さや大切さを実感させることが必要だと考える。そのためには，学習意欲を高める単元の構成が求められる。

1　単元構成

私は国語科の学習で新しい単元を始めるとき，まず単元を貫くゴールを子どもと共に設定した。「環境を守るための意見文を書く。」「お話の面白さをブックトークで伝える。」といったものである。

単元の１時間１時間の学習課題はそのゴールに直結するものとなる。子どもたちは毎時間ゴールに向かって学習を積み重ね，課題を解決し確かな手応えを感じながら学び続けることになる。

その際，子どもを「読み手」ではなく「書き手」の立場に立たせることは大切である。ゴールで他に発信するときに，どう表現したら相手に伝わるのかを真剣に考えさせる。そこで，表現のプロはどんな工夫をしているのか教材文から読み取る必然性が生まれるのである。

読み取った筆者（作者）の工夫を自らの文章表現に取り入れることが出来た時に子どもたちの「日本語」の力は「高まった」と実感できるものになる。

2　書く力について

生まれてから子どもは「聞く力」「話す力」「読む力」の順に言葉の力を獲得していく。次に「書く力」となる。このときの「書く」は，自分の考えを誰に何のために伝えるのかという意識をもち，伝えたいことを工夫して伝えるという「書く」である。

「書く」ためには「考える」ことが必須となる。どのような言葉を用いたらいいのか，どの事例を使ったらいいのか，どの順に述べたらいいのか等，考えなければならないことが山積する。だからこそ子どもたちは，一人一人がもっている言葉の力を総動員して考えながら「書く」ことに取り組む。

平成29年に告示された学習指導要領においても「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての領域において，自分の考えを形成する学習過程を重視し「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。３・４学年の話し合う活動においても「必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。」と示されている。ただ話し合うだけでなく「自分の考えをもつ」＝まとめて書くという活動が設定されているのである。

3　日常的に書く力を高めるために

子どもたちは，授業中にまた，テストの中で短い時間で自分の考えをまとめて書くことを求められる。そのような書く力を高めるためには①書く機会を多くもつ。②適切に評価する。の２つが有効である。単元のゴールとしてまとまった時間を使って書くことのほかに，話し合いの場面で自分の意見を書くことや，学習の終盤でまとめや振り返りを書くことはすでに多くの教師が行っている。大切なのはそのノートに毎回目を通して，短くてもいいから赤ペンを走らせることである。書かせっぱなしでは子どもの書く意欲も力も高まらない。

私が続けてきたことの一つに「テーマ日記」がある。学級終会の数分で，示されたばかりのテーマで文を書くのである。「友情とは」「先生の通信簿」などである。長さは自由。ノートには毎日赤ペンを入れた。テーマに沿って書いているところ，優れた文章表現にサイドラインを入れて朝会で返す。子どもたちの意欲と表現力は日に日に高まっていった。

おわりに

目の前の子どもたちに，どんな力をどうやってつけていくか，それを考えるのが教師の一番の楽しみであると思う。

繋ぐ・支える・輝く
（繋ぐの巻）

新潟教育研究所 研究員
宮川由美子

はじめに

私の子ども時代は，明治，大正，昭和それぞれの世代が揃っている家庭が多かったように思う。４月１日，令和という年号が発表された時に平成生まれの姪が「私は前の時代の人間だ」と言った。では，私など前の前の時代の人間である。皆さんは，この瞬間，何を感じただろう。

１　いつ休むの？

定年までを過ごした学校で，私はＫさんという用務員さんと３年間一緒の勤務であった。

自分の思いをうまく表現できない特別支援学級のＴさんは，時折教室を抜け出し廊下を行きつ戻りつしていた。そんなＴさんに，Ｋさんは廊下のモップがけをしながら何やかや話しかけていた。その温かい空間を何度目撃したことか。

自分の仕事がいつも切羽詰まっている私は，Ｋさんの次くらいに学校着ということがよくあった。その時点で，100％校長室や教務室は掃除が終わっており，すべての職員の机脇のゴミ箱は塵一つ残っていなかった。

ある凍りつくような冬の朝。「融雪剤を撒きたいので教務室に居てもらえますか。」と頼まれた。ようし，少しは気を利かすかとポットを持ち上げたら，既にお湯が満タンであった。

「ここに釘を・・・」なんてうっかり口に出そうものなら，次に校長室に戻ってきたときにすべて完了していた。私だけではない。誰が何を言っても，すぐに何とかしてくれたＫさん。

先生方が少しでも気分よく仕事ができることが子どもたちに繋がることを，背中で教えてくれるＫさんに足を向けて寝られない私であった。

２　ヒマワリシスターズ参上!

新年度が始まり，始業式や入学式が滞りなく終了した日の晩，だいたいどこの学校でも「職員歓迎会」なるものが開かれる。

その席でダンスを披露し大いに盛り上げてくれたのがヒマワリシスターズの面々であった。正直，目が点になったが，その朗らかさと全てを包み込むようなオーラは，何物にも代えがたいものだと，その後実感していくことになった。

彼女たち３人は，特別支援学級の支援員さんであった。特別支援学級が設置されている学校への勤務が初めてだった私は，そこへ毎日訪問することで理解を深めたいと考えていた。

ボーッと眺めている私に「校長先生，Ａさんは折り紙が上手なんですよ。」とか「Ｂさんはこの絵本を上手に読めるんです。聞いてみますか？」などと，私と子どもたちを自然に繋いでくれた。見ていると，彼女たちは子どもたちの言動を決して否定しない。「そうか，Ｃさんはそう思っていたのね。だから，・・・したのか。分かったよ。私思うんだけど，・・・したらもっと面白いかも。」子どもたちの思いを大切にし寄り添うとはこういうことかと，この３人から学んだと言っても過言ではない。

３　間違いなく大きな存在だった

子どもは正直である。上っ面の笑顔や親切には見向きもしない。自分を本当に思ってくれる人を瞬時に嗅ぎ分ける。「その子の『いいとこ見つけ』をしたかったら，用務員さんや調理員さん，支援員さんやコーディネーターさんに聞くといいよ」と，先生方に事あるごとに囁いた。通知表や指導要録，個人懇談会の時期は特にしつこかったかもしれない。「なくてはならない人たち」の存在って，何て大きいんだろう。

おわりに

昭和一桁生まれの老母は，還暦を過ぎた娘（私）に「車に気を付けろ。忘れ物はないか。」と注意を与え，その娘はお弁当包みをありがたく受け取る日々である。「親の意見とナスビの花は千に一つの無駄もない」平成生まれの若者はこの意味をご存じだろうか。いい年の私も周囲の声に素直になりたいと，精進の日々である。

Support, Information & Opinion
S. I. O. の充実をめざします

第11回教師力アップ講座の開催

今年は午前の第１講座，午後の第２講座ともに１時間45分（105分）とします。受講は選択制，研修は参加型，参加費無料，どなたでも参加できます。別紙「教師力アップ講座」の案内状をご覧になってお申し込みください。HPからでも申込できます。

●**日時**　令和元年７月28日（日）午前９時45分～

●**会場**　新潟教育会館（新潟市西大畑町590-３）

●**内容**　第１講座

「小学校外国語科の授業づくり
～外国語科の授業で大切にすること～」

講師　村上　大樹 様
新潟市立味方小学校　教頭
小学校英語教育推進リーダー(新潟市)

第２講座

「道徳科の授業に求められること
～模擬授業を通して道徳科の授業づくりを考える～」

講師　吉原　修英 様
新潟市教育委員会学校支援課
嘱託指導主事

教育アドバイザー派遣事業の推進

教育アドバイザー派遣事業は，要請に応じて登録いただいている教育アドバイザーを派遣し，学校及び先生方を支援する制度です。校内研修はもちろんですが，授業研究会，PTA講演会，研究サークルへの派遣申請が多く見られます。個人研修の要請にも応じますので，ご利用ください。

教育アドバイザーの選定は，「教育アドバイザーリスト」をご覧ください。12月には，令和元年度登録者を加えた「令和元年度版教育アドバーザーリスト」を送付します。

所報「新潟教育研究所」の発行

６月・12月・３月の年３回発行します。

教員意識調査の実施

第８回教育調査は，「教員の働き方改革を進展させ教育の充実を図る。」ことを目的として実施します。アンケート調査用紙が届いた方はご協力をお願いします。

教育アドバイザーの派遣について

要　請　の　仕　方

校内研修で，研究会で，PTAの講演会で，研究サークル等で，「あの先生にアドバイスを受けたい，話をしてもらいたい」と思ったら……

1　まず事務局にお電話をください。
新潟教育会事務局 **025-222-2971** へ
招請したい教育アドバイザー，期日，内容，会場，参加人数等をお話ください。

2　事務局が教育アドバイザーに連絡をとります。

3　依頼者に承諾の結果をお知らせします。

4　応諾であれば，依頼者が教育アドバイザーに詳細を連絡してください。

※　事前に教育アドバイザーと連絡を取り，結果を事務局にお知らせいただく形でも結構です。

派遣経費についての注意

謝金・交通費等は，年度内で連続して同一の教育アドバイザー派遣を要請する場合，初めの１回分だけを当方が負担します。２回目以降は利用者が負担してください。教育委員会からの要請はご相談ください。